令和４年度学校評価報告書

１　本年度の重点目標

（１）基本的生活習慣、規範意識を定着させ、自らを律し、他者と協働できる力の育成に努める。
（２）主体的な進路選択と実現が果たせるよう、主体的に学び、問題の発見・解決に資する力の育成に努める。
（３）生命を尊ぶ態度、健康・安全・福祉に係る意識を高揚し、健やかな心身の育成に努める。
（４）教職員間で業務の在り方、見直しを話し合う機会を設け、校内業務の適正化を図ると共に、「育成を目指す資質・能力」がどれだけ身に付いたかを検証し、教育活動の改善に努める。

２　自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	①評価法の工夫による学習意欲の向上 評価について、定期的に校内研修を設定し、観点別評価に対する教職員全体の共通認識、共通理解の向上を図ってきた。生徒の学習活動を適切に評価し、次の学びの意欲につながる評価の実践に向け、さらなる研修機会を設定し、推進していく。 ②ICTの有効活用 今年度より全生徒に学習用端末が貸与され、様々な学習場面で活用されるようになってきている。また、ICTを活用した探究活動も実施され、学習活動、内容の拡大が図られてきている。 ③授業内容、学習方法の工夫 ICTの活用等により、学習活動、方法の拡大が図られ、授業改善につながっている。生徒個々のニーズに応じたさらなる活用を探り、個別最適な学びの実現に繋げていく。	・ICT等を活用し、生徒の学力差等に応じた個別指導、学び直しの充実を図り、生徒の確かな学力の育成に努めていただきたい。また学習以外でも、部活動の活性化などを図り、他から認められる経験を多くすることで、生徒の自尊感情の育成に繋げていただきたい。 ・ICTを活用した学習環境整備については、様々取組みがなされ、成果が出ている。さらなる充実を期待したい。教育課程の改善については、地域ニーズも参考に、学校、地域、家庭が一体化した教育の実現を図っていただきたい。 ・地域の学校として、地域を支える人材育成を主眼に、今後も地域の教育資源を有効に活用した、実践的な学習の推進をお願いしたい。
改善方策	・小規模総合学科として、生徒の様々な進路ニーズに対応しうる教育課程の編成や選択科目の開設、授業改善などの創意工夫を講じ、教育活動の充実、改善を図る。また、今後も地域連携を推進し、地域の人的・物的な教育資源を有効に活用し、生徒の進路ニーズの拡大や学習意欲の向上につながる教育環境構築に努める。	
生徒指導	①組織的な指導による基本的生活習慣の確立 遅刻や服装の乱れなど、一部生徒の規範遵守について課題が見られた。学習ルールや校則などの校内ルールについて、生徒、保護者とさらなる共通理解を図り、規範意識の保持・向上を進めていく。 ②いじめや不登校等の未然防止、早期対応 年間を通じて、定期的な個別面談を実施し、意図的に自己有用感を高め、豊かな心の育成を図ってきた。いじめに関する案件もなく、一定の効果が見られている。 ③協働意識や社会性の育成 学校祭などの生徒会行事を充実させることで、学校や地域に愛着を持ち、協働意識や自己有用感の向上につながるよう努めてきた。生徒の主体的な姿も多くなり、成果があったと考える。	・学校・家庭・地域が一体となった生徒指導の推進が大切である。今後も学校、家庭、地域で連携した生徒指導の充実を図り、社会性の育成へと繋げていただきたい。 ・全生徒への全員面談の実施など、問題行動の未然防止などの観点から成果が大きい。今後も継続していただきたい。 ・生徒会を中心とした学校祭の取組みが学校教育の発信にもつながり、町内外においても反響が大きかった。今後も町と連携を深め、地域の核となる学校行事を運営していってほしい。
改善方策	・学校からの適切な情報発信に努め、学校、家庭、地域が共通理解に基づいた一体感ある生徒指導を推進し、さらなる生徒指導の充実を図る。 ・生徒の主体的な取組みを推進し、学校・家庭・地域が一体となった学校行事を運営していく。	
進路指導	①特色あるキャリア教育の実践 １年次から３年次まで、系統性をもった進路指導を実践している。今年度は２年次において「アカデミックインターンシップ（大学・専門学校見学）」も新たに実施した。特色ある教育を継続し、生徒の進路実現に繋げていく。 ②主体的な進路選択・行動ができる生徒の育成 年次ごとの進路講話や進路に関するイベント、職業体験等を通して、職業観を身につけさせ、自己理解を深め、具体的な自身の将来像を描くことのできる力の育成に努めていく。 ③家庭・地域と連携した進路指導の推進 職業人講話など、町内企業、役場の方々の協力の下、実施できている。また、振興会より各種検定の受検補助や学習コンテンツの支援などをいただき、進路活動がスムーズに行うことができている。	・１年次から系統性をもった進路指導を積み上げていくことで、生徒の進路に対する視野を広げ､様々な進路ニーズの表出やその実現に繋げ、さらに進路指導の充実を図っていただきたい。 ・地域との連携を強化し、インターンシップなど、新たな協力企業の開拓、拡充に努め、具体的な進路指導の充実を図っていただきたい。 ・地域資源を活用した、実際的、実践的な進路指導に努め、地域に貢献できる確かな力の育成を図っていただきたい。
改善方策	・進路に関する適切な情報発信、指導に努め、進路に対する視野の拡充、意識の醸成を図る ・３年間を見通した進路指導の在り方を再構築し、系統性をもった進路指導の実現を図る。	
公表方法	・評価結果をまとめて、教職員に対して会議にて公表説明した。 ・外部には本校ホームページ上に掲載した。	